

# P1-1 2020年の鳥取県におけるがん罹患・死亡の状況に関する記述疫学

尾崎米厚、桑原祐樹、金城文、金弘子（鳥取大学・医・環境予防医学分野）

【目的】 2020年の鳥取県のがんの罹患・死亡の記述疫学的分析を通して、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行や対策ががん統計に及ぼした影響を考察する。

【方法】 2020年分の鳥取県の地域がん登録におけるがん罹患情報、死亡情報、人口動態統計死亡票からのデータを、時間（年次等）、場所（鳥取県の東、中、西部）、人（性、年齢）の要素で集計・分析し、新型コロナウイルスの流行状況と照らし合わせる。

【結果】 罹患数、罹患率が減少したが（罹患率前年比-2.7%）（図1）、全国ほどではなかった（図1参考）。部位別にみると部位により増減の特性は異なり、前年より増えた部位もあった（図2）。罹患数の減少は、登録精度の悪化のためではなく（図3）、がん検診の受診率低下である程度説明できる。

性別、部位別、年齢階級別にみた特性は、異なっていた。2020年に罹患率が減少したがんの部位は、[男]肝、胃、肺、前立腺、[女]では肺、逆に増加した部位は[男]大腸、[女]大腸、肝、子宮であった（図4、図5）。部位ごとで、影響を受けた性、年齢階級が異なっていた（図6-図9）。

一部の部位で、診断されたがんの進展度の悪化（図10、図11）、発見経緯の変化（検診の割合の低下）（図12、図13）が認められた。

2020年の中部のCOVID-19の流行は、大きくなかったが、がん罹患への影響は大きかった（図14）。

2020年に罹患数、罹患率以上のがん死亡数、死亡率の低下が認められた（75歳未満年齢調整死亡率前年比14.6%減）。大きな影響を受けたのは中部であった。2020年に死亡率が減少したがんの部位は、[男]胃、肺、大腸、[女]では胃、大腸、乳房、肺、子宮、増加したのは女性の膵臓であった（図15、図16）。死亡場所は、病院が減り、自宅が増えた。

罹患の動向の一部は、がん検診の受診率の減少で説明がつくが（図17）、説明つかない変化もあった。

【結論】 2020年にがんの罹患数・罹患率の減少を確認した。その一部は、がん検診の受診率が低下したことと説明される。同年のがん死亡数は、罹患率の減少幅以上に減少した。それらを性、年齢階級、部位別にみると一貫した法則性は見出しにくい、がん検診のある部位での影響が大きかった。死亡数・死亡率減少の理由は不明である。日本がん登録協議会第34回学術集会COI開示：筆頭著者名 尾崎米厚、本演題発表に関し、開示すべきCOIは、ありません。

